

ラグビーワールドカップ2019

本県開催への取組が加速

「スポーツ王国しずおか」を目指す静岡県は、アスリートの育成やスポーツ人口増大に向けた取組を行っている。今号は2019年のラグビーワールドカップへ本格的に始動した本県の動きを紹介する。

推進体制を整備し本格始動

2019年、アジアで初めての開催となる第9回ラグビーワールドカップが日本で開催される。同大会の開催期間は2019年9月20日～11月2日。全国12都市で試合が行われ、袋井市のエコパスタジアムも会場の一つに決まっている。

静岡県は、ラグビーワールド

カップ2019の県内開催に向け、市町や関係団体と協力し、開催準備や機運の醸成を図るため、「ラグビーワールドカップ2019静岡県開催推進委員会」を設置し、平成28年から本格的に動き出している。

開催にあたっては、豊かな自然や文化に恵まれた本県の魅力を

活用する「静岡らしいおもてなし」を実現するため、観客の円滑な入退場対策を行う交通管理計画、静岡県の特色を生かした空間を演出し、誰もが気軽に集い、楽しめる場所を提供するファンゾーン運営計画等を策定するとともに、エコパスタジアムをラグビーワールドカップ開催にふさわしい施設に改修し、国際大会の誘致など、準備を進めている。

大会開催に向け機運を醸成

成功の鍵を握るのは県内の機運醸成だ。本県では、平成28年5月に行われた「2016静岡県ラグビーフェスティバル」などの様々なイベントを通じて、ラグビーワールドカップ2019のPRを行い、県民の関心を高めて

いる。また、小学生世代からラグビーのおもしろさを知ることのできるタグラグビーの普及を進めており、小学校の先生や地域のスポーツ推進委員に対する研修会を開催するとともに、県内各地でタグラグビー教室を開催している。さらに、県内小学校へタグラグビーセットを配布・貸与する計画も進めている。

こうした取組と合わせ、ラグビーワールドカップの会場となるエコパスタジアムでは、9月に袋井青年会議所の主催により、地域の人がスクラムによるギネス記録に挑戦し、1656人の世界記録が認定された。さらに12月のラグビートップリーグの試合においては、小中高生及び特別



袋井青年会議所主催のスクラムによるギネス記録への挑戦。1656人がスクラムを組んだ。



愛鷹広域公園スポーツ広場で行われたタグラグビー教室。35人の小学生がタグラグビーを楽しんだ。

支援学校生を無料招待するとともに、ラグビーワールドカップ2019「ふじのくに」応援団総決起集会と称し、出場予定の国の食と音楽で本県独自の機運醸成事業を行うなど、全県一丸となった盛り上げを図っている。大会まで3年弱。来年度中には開催日程や公認チームキャンプ候補地が決定し、チケットの販売開始も予定されている。今後、期待感も高まっていく中、着実に開催準備を進めるとともに、さらに大会機運を盛り上げ、大会後にもつながるラグビーを核とした交流の種を蒔き、大きく育つよう取組んでいく。



写真提供：ヤマハ発動機株式会社

ラグビーワールドカップ2019™「ふじのくに」応援団総決起集会でのヤマハ発動機ジュビロ選手との交流イベント。

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック 県勢メダリスト・入賞者に知事特別表彰

2016年8月・9月に行われたリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでは、日本勢が大いに健闘しました。県では、本県にゆかりのあるメダル獲得者と個人種目8位までの入賞者の14選手に知事特別表彰を授与しました。

◆陸上 男子400m(車いすT52):銀
◆陸上 男子1500m(車いすT52):銀

佐藤友祈選手
(所属:株式会社グロップサンセリテ)

ロンドンパラリンピックの車いす競技に感動し、競技を始める。競技経験が浅いこともあり今後の成長が期待されている。

◆卓球 男子団体:銀
◆卓球 男子シングルス個人:銅

水谷隼選手
(所属:beacon.LAB)

男女を通じて日本勢初となるシングルスでの銅メダルを獲得。団体戦でもエースとしてチームを牽引し銀メダル獲得に貢献。

◆陸上 男子4×100mリレー:銀

飯塚翔太選手
(所属:ミズノ株式会社)

4×100mリレー日本チームの第2走者を担当。決勝でアジア新記録となる37秒60のタイムで2位となり、銀メダルを獲得。

◆陸上 男子マラソン(視覚障害T12):銅

岡村正広選手
(所属:千葉県立千葉盲学校)

23歳でマラソンを始め、ロンドンパラリンピックでは4位。リオパラリンピックでは猛暑の中、粘りの走りで念願のメダルを手にした。

◆ウィルチエアーラグビー 混合:銅

若山英史選手
(所属:医療法人社団愛康会あしたかケアセンター)

勝利に欠かせないと言われるディフェンスの要。激しいスポーツでありながら頭脳派の「考えるラグビー」を実践。

◆競泳 男子200m個人メドレー:4位

藤森太将選手
(所属:ミキハウス)

メドレー後半の平泳ぎで4位に順位を上げそのままゴール。力強い泳ぎを見せて4位入賞を果たした。

◆自転車 男子個人バッシュート(運動機能障害MC2):8位

川本翔大選手
(所属:大和産業株式会社)

障害者野球の日本代表から19歳でパラサイクリングに転向して急成長。日本パラサイクリング界の新星として世界を目指す。

◆陸上 男子走幅跳び(切断などT42):銀
◆陸上 男子4×100mリレー(切断などT42-47):銅
◆陸上 男子100m(切断などT42):7位

山本篤選手
(所属:スズキ浜松AC)

北京パラリンピックで日本勢初の義足陸上選手メダリストに。ロンドンパラリンピックでは陸上チームのキャプテンを務めた。

◆ボッチャ 混合団体(Team BC1-2):銀
◆ボッチャ 混合個人(BC2):5位

杉村英孝選手
(所属:有限会社伊豆介護センター)

日本チームのキャプテンを務め、ボッチャ競技史上初のメダル獲得に貢献。緻密な戦略と技術で勝負を制する。

◆卓球 女子団体:銅

伊藤美誠選手
(所属:スターツSC)

世界の強豪を相手に自然なプレーを展開。卓球史上最年少の五輪メダリストという記録を15歳300日で更新。

◆陸上 男子4×100mリレー(切断などT42-47):銅

佐藤圭太選手
(所属:トヨタ自動車株式会社)

高校1年生の時、陸上競技を始め、わずか6年でロンドンパラリンピックに出場。リオパラリンピックで念願のメダルを手にした。

◆水泳 男子50m平泳ぎ(運動機能障害SB3):4位
◆水泳 男子150m個人メドレー(運動機能障害SM4):4位

鈴木孝幸選手
(所属:株式会社ゴールドウイン)

6歳から水泳を始め、2004年アテネパラリンピックに17歳で出場。リオ大会で4回連続のパラリンピック出場となった。

◆柔道 女子63kg級(視覚障害):7位

米田真由美選手
(所属:三井住友海上あいおい生命保険株式会社)

父親の影響で3歳から柔道に取り組む。2012年ロンドンパラリンピック出場後、2度の手術を乗り越えて7位入賞。

◆競泳 女子4×100mリレー:8位

松本弥生選手
(所属:ミキハウス)

日本チームの要のアンカーとして出場。7位入賞したロンドン五輪に続き、2大会連続の入賞を果たした。